

## 復活節第4主日 (ヨハネ 10:27-30)

マリアに倣い、イエスが留まれる場所に自分を変える



新しい教皇様が選ばれました。ミサの中で唱えられないのではないかと心配していましたが、安心しました。また本日は世界召命祈願の日でもあります。そのことも含めて話したいと思います。

今年のルルド祭は聖年に行われました。説教を聞いている時点で、指定巡礼地を訪れ、教皇様の意向にしたがって、主の祈り・アヴェマリアの祈り・使徒信条をささげ、聖体拝領も予定していますから、あとは聖年に与えられる免償を受けるために、ゆるしの秘跡を20日前後の期間内に受けましょう。そうすることで、全免償を受けることができます。

福音朗読でイエスは言われました。「わたしは彼らに永遠の命を与える。」(10・28)復活祭を祝ってから三週間になりました。復活の主は、ご自身のために何も残さず、私たちにすべてを与えてくださいました。その上に、永遠の命を与えてくださいます。人類は、この「すべてを与えてくださるお方」にどのように感謝すればよいのでしょうか。

私たちから、主イエスに何かを与えることができるのであれば、もちろん喜んで与えたいですが、私たちはイエス様に与えることのできるものを持ち合わせていません。人と人とが互いに贈り物をするように、互いに与え合うことができないのです。

全人類が、イエスに対して同じなののでしょうか。ただ一人、神の御子に持っているものを与えることのできたお方がいました。それは、イエスの母マリアです。マリアは被造物の中で唯一、イエスに与えることのできるお方でした。「わたしは彼らに永遠の命を与える」(10・28)と言われる方に、マリアはこの世の命をお与えになったのです。

ただ一人イエスに与えることのできたマリアと、私たちとの違いは何でしょうか。それは「無原罪の御宿り」ということです。ベルナデッタを通しておおやけになった「恵みあふれる姿」が、私たちとの違いです。私たちはここ井持浦のルルドに集まり、永遠の命を与える唯一のお方である神の御子にこの世の命をお与えになったマリアをたたえます。

マリアをたたえる私たちは、マリアを恵みで満たした同じ神の恵みに照らされて少しずつ学びを得ます。マリアは神の御子に、言わば「宿」を用意しました。母となったすべての女性と同じく、およそ10ヶ月宿を用意しました。実は私たちも、今日のルルド祭のミサ(各自のミサ)に参加してイエスに「宿」を用意できるのです。どんな「宿」でしょうか。

イエスは最後の晩餐で、ご自身を食べ物としてお与えになる「聖体の秘跡」を残してくださいました。聖体となられたイエスは、ご自身のとどまる「宿」を必要としています。「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。」(黙示録3・20)ルルド祭のミサでみことばと聖体に養われる私たちは、しばしの間イエスに「宿」を用意できるのです。

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

今日の典礼でイエスにお宿を用意できるのは短い時間かもしれませんが、マリアは24時間、それも長い期間お宿を提供しました。私たちが望むなら、24時間、しかも人生という長い時間を、イエスのお宿として提供できます。特に、マリアに倣いたいと願う方々に、神はあなたの望みを叶える召命の恵みをお与えくださるでしょう。

願うことを叶えるためには、きっと理解者、協力者も必要でしょう。教会によっては、司祭修道者の召命を支える信心会や委員会のあるところもあります。イエスがいつも留まることのできる宿となりたい。また、そんな召し出しのある人を支えたい。この願いが叶えられるように、ルルドの聖母に取り次ぎを願いつつ、ミサを続けてまいりましょう。

復活節第5主日(ヨハネ 13:31-33a,34-35)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。